



第36回夏期 ジュニア大使友情使節団

～パラオ・スマイルで帰国～

IFAは、ジュニア大使・パラオ班を、2023年8月3日～9日の日程で実施した。ここに、新潟、青森、東京、静岡から参加した団員10名の旅の記録を紹介する。(関連記事、本誌5月号)

【8月3日(木)】

ジュニア大使のメンバーと初めて顔を合わせ、海外研修が始まった。みんな最初は緊張している様子だったが、日本文化紹介の練習で徐々に仲が深まっていた。機内では客室乗務員とやりとりができ、これからのパラオでのコミュニケーションに少し自信を持てた。明日からのパラオでの活動がとても楽しみだ。

【8月4日(金)】

今日は在パラオ日本国大使館訪問、小中学校訪問があった。大使館訪問では、大使の仕事やパラオと日本の関係など普段知ることのできない話を聞かせていただき、貴重な体験ができた。

小中学校訪問では、クラスごとに分かれて校内を回り、学校の紹介してもらった。その後、パラオの学校給食を食べ、昼休みはバレーボール。会話はすべて英語だったため全てが正しく伝わるわけではないが、とても仲良くなることができた。



生徒が見つめる中、日本文化紹介

【8月5日(土)】

ホストファミリーと対面。首都マルキョクにあるパラオ政府庁舎に連れて行ってもらった。とてもきれいな建物で、庭園やそこからの景色は絶景だった。庁舎の壁には国鳥であるビーブ(和名でホレイヒメアオバト)がたくさん描かれていた。お昼にはベビーシャワーを見に行った。今日は、ホストファミリーと仲を深めながらパラオの歴史や伝統を学びとてもいい経験になった。

【8月6日(日)】

昨日の夕方、英語でうまく会話できず泣いてしまった。そんな私のために、好きな食べ物を作ってくれたり、一緒にゲームをしたり、ゆっくりと話をし

てくれたりした。何回も「ダイジョブ」と聞いてくれたり、「アリガトウ」のような簡単な日本語を笑顔で言ってくれたりしてとても嬉しかった。私もホストファミリーもお互いに心を開くことができ、とても充実した2日間だった。

【8月7日(月)】

久々に仲間達に会った。そしてペリリュー島へ一直線。海はエメラルドグリーンでとても綺麗。島に着いてからは、数々の戦争跡を見学した。今までたくさんの戦争についての話を聞いてきたが、間近で見るとその悲惨さがひしひしと伝わってきた。その後はカーブ島へ。すぐにストーンマナーを見に冒険に出た。1時間以上かかる長丁場だったが、想像以上の見物に圧倒させられた。夕食はみんなでカレーライスなどを楽しみながら作った。

【8月8日(火)】

今日はシュノーケリングをした。サンゴの広がる海を彩る美しい魚たちが目の前を泳いでいった。その後は国会議事堂に行き、話しを聞いたり、たくさん部屋を見学させてもらったりした。そして高校訪問。自分の国の文化を紹介し合った。パラオ高校の生徒はとても優しく、たくさんのことを質問してくれ、とても充実した時間を送ることができた。最後にホストファミリーとお別れ会。とても悲しくて泣いてしまいそうになったが、優しくハグしてくれて、気持ちよく日本へ飛び立つことができた。

(参加者日誌より抜粋、校正：編集)

世界万華鏡

スペイン留学生の見た日本 クリエル バローソ ミゲル アンヘル 「そのお辞儀はなんで」

皆さん、今まで電話に出て話したことがありますか。もちろんと言えるほど単純な質問ですが、もっと詳しく聞いたら、電話の時、何をしますか、話すだけでいいですか。



私には、以前、スペインに留学していた日本人の友達があります。その人は社会人として日本の会社につとめています。その人と、この間、再会しました。彼の家に遊びに行って私と気軽に喋っているところに、彼のスマホがなりました。仕事の電話でした。

「あ、いつもお世話になります。この間の件でしょうか。恐れ入りますが、もう少しお時間をいただければ助かります」

友達は電話に出たら、まるでサラリーマンモードのスイッチが入ったように、彼の態度が大きく変わりました。典型的な敬語を使うだけではなくて、体の

姿勢も仕草も変わりました。例えば、目上の相手が目の前にいないのに、大げさにお辞儀をしました。

「いつも弊社のサービスをご利用くださりましてありがとうございます。はい、それではまたよろしくお願いたします」

電話が終わったらまたモードが変わりました。

「あーあ、またかけてくるな、もう」先生や他の日本人の友達にこのことを聞いてみたら、皆は、「あ、確かにそれをやりますね。気づいていなかったです」と答えてくれました。なぜ、意識せずにそこまで身振り手振りが変わるのでしょうか。

私の国スペインでは電話をする時、どんな種類のジェスチャーもしません。なぜかという目の前に話し相手がないからです。確かに、スポーツの試合を見ている時、ひとりで家でも、友達と一緒にいて酒場でも、盛り上がっていて、応援していたチームが失敗した瞬間に、「何やってるんだ、お前」、「そういうことはダメだろう」、「走れ、ボールを蹴ろ」と呼びながら腕を振ることがあります。それは感情が高ぶったため、相手のことを特に考えてい

ない行動です。

日本の文化の場合、おそらく身振り手振りがマナーや丁寧さと関係していて、それが日本人に深く染みついているのではないのでしょうか。日本人は幼少期から、または家庭で受けた教育を通じて、社会的な上位のメンバーとコミュニケーションを取る際に姿勢に注意を払うように教えられていると聞きました。スペインとの違いに驚くと共にたいへん興味深いです。

私も今までの日本の滞りで、日本人にどんな印象を与えているのか、気になりはじめています。

令和5年8月25日に4年ぶりに実施された、IFA後援「ARC日本語学校スピーチ大会」(於：国立オリンピック記念青少年総合センター)の優秀スピーチ。出場者15名、参加者の出身国・地域：ベトナム、中国、タイ、イタリア、ミャンマー、スペイン、マカオ、カナダ

令和5年9月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集 集：事務局 03(3582)3021
印刷 刷：ダイト印刷株式会社